

淀川城北ワンドと庭窪ワンドにおける外来魚駆除状況(2025 年の報告)

- 渡邊 翔悟・山田 拓輝・奥野 駿平・三橋 雅子（大阪工業大学 城北水辺クラブ）
・田中 耕司（一財）河川情報センター）・鶴田 哲也（大阪産業大学）
・丸山 勇氣・古澤 千春・原口 岳（大阪府立環境農林水産総合研究所）
・河合 典彦・綾 史郎（淀川水系イタセンバラ研究会）・高田 昌彦（琵琶湖を戻す会）

発表者らは「淀川水系イタセンバラ市民ネットワーク」で 2012 年よりイタセンバラの復活を目指して淀川下流域で定期的に地引網を曳き、外来魚の駆除活動を行っている。2025 年も例年と同様に 4 月から 11 月の間に城北ワンド群の 34, 35 号ワンドで原則月 2 日、庭窪ワンドの 25-1, 25-2 号ワンドで原則月 1 日、1 日について 4～6 回地引網を曳いて駆除活動を実施した。地引網を引いた総回数は、城北ワンドではのべ 15 日間に 73 回、庭窪ワンドではのべ 7 日に 25 回であった。

城北ワンドでは、2025 年の総個体数中の外来魚個体数の割合（外来魚率）は、2024 年と比べて約 8%減り 38%となり、外来魚の総数は昨年の 3088 匹から 2381 匹に減少した。特に個体数が減ったのがブルーギルで、2022 年から 2024 年の 3 年間は 2000 個体を超えていたが、2025 年は約半数の 1100 個体あまりと半減していた。一方で、タイリクバラタナゴ、オオクチバスではそれぞれ、約 400 個体から約 700 個体へ、約 450 個体から約 550 個体へと、やや増加した。

在来魚ではカネヒラは 2023 年に過去最多の 600 匹確認されたが、今年はその倍以上の 1562 個体を確認された。

この地引網と同様に継続して行っている外来魚駆除釣り大会でブルーギルが多数採れ、駆除ができたことや、日々の活動がブルーギルの減少につながったのかもしれない。今後とも継続して外来魚駆除活動を実施していきたい。

庭窪ワンドは城北ワンドと比較するとやや浅い構造が特徴であり、フナの小型個体が多く捕獲された。外来魚率は約 38%で、そのうちブルーギルが 6 割、オオクチバスが 4 割を占めており、城北ワンドでは多く確認されるタイリクバラタナゴがほとんど見られなかった。城北ワンドとは確認される魚類の種、割合が異なり、淀川に元々あった攪乱環境下で形成される様々なワンドの環境の一つであると考えている。庭窪ワンドでも外来魚の駆除活動を継続し、在来魚の生息に適した環境作りにつなげていきたい。